

健康・安全

「健康と安全」は企業の社会的責任の一つであり、快適に仕事を行うための基盤です。社員やお客様をはじめ、企業活動にかかわるすべての人々の健康と安全を第一に、あらゆる側面から推進を図っています。

■ すべての人々の安全を守るために

東京エレクトロングループは、社員やお客様をはじめ、企業活動にかかわるすべての人が安全に働き、安全に製品を使用し、そして健康であることが企業の社会的責任の一つであると考えています。

2005年度は、経営層向けの安全研修をグループ各事業所で計6回行いました。関連会社を含む執行役員などを対象とし、ヒューマンファクターへの組織的アプローチの必要性やリスク管理などの「理論編」、当社グループの作業現場の声や安全上の問題点などの「実践編」、当社グループでの安全文化の構築について議論を行う「討論編」の3部構成で行われました。

参加した経営層からは「社員の安全意識は相当高まり、浸透したと思うが、意識の継続に難しさを感じる」「安全については経営者の強い意志と、それが現場にきちんと浸透できる組織体制や管理体制の構築が重要」などの声があがっていました。2006年度はこの結果を踏まえ、中間管理職向けの研修を開催する予定です。



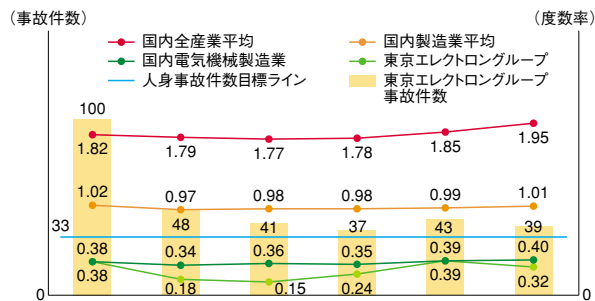
「トップ安全研修」の様相

■ 人身災害事故の管理

当社グループ全体の労働災害度数率は、2005年度には2004年度から少し低下しました。しかし、生産量が増加し作業が増えたことに伴い、労働災害や事故の要因は増加する傾向にあります。当社グループの事故傾向統計では、人間工学的な要因*が全体の約30%を占めるとの結果がでています。装置の大型化や複雑化に伴い、無理な姿勢での作業や重量物の取り扱いなど、従来の装置にはないリスクが発生しており、これらの対策を進めています。

* 人間工学的な要因：長時間にわたって体に対する作用が引き起こす、重労働、反復動作、不自然な姿勢などの要因。筋骨格系障害。

労働災害度数率と人身災害事故件数の推移グラフ



*事故件数は2000年度を100とする
 *労働災害度数率：100万延労働時間あたりの労働災害件数、休業4日以上の災害発生件数÷延実労働時間×1,000,000

TOPICS

「安全第一標語キャンペーン」を実施

2005年度に、グループ全体で安全第一に関する標語募集キャンペーンを行いました。「現場主義」を意識し、当社グループ共通の認識である「安全第一」を推進するための標語をつくることで、当社グループならではの安全第一を掲げようと考えたからです。

600件以上の応募作品の中から最優秀賞、優秀賞、特別団体賞を選考しました。受賞した標語を使って啓発用のポスターを作成し、グループ各事業所に掲示しています。また、従来からあ

った「安全第一について」の社員携帯用カード裏面にも受賞した標語を掲載し、日頃から安全を意識するよう努めています。



携帯用安全第一カード



「アイキャッチセーフティ」ポスター

■ ウェーハプローバでの安全対応事例 ～人間工学的対応～

最近の事故傾向からも分かるように、人間工学的な要因の災害が占める割合は増加傾向にあります。この原因として、ウェーハや基板の大型化に伴い、装置の大型化が進んでいることがあげられます。そこで、当社グループの製品でも様々な対策を講じています。

その一つが、ウェーハプローバ*における対策です。近年、ウェーハプローバに装着するテストヘッドが大型化し、重量物を扱うため、作業時の人間工学的なリスクが高まってきました。最近では総重量が500kgを超えるテストヘッドも珍しくなく、据付時の作業を従来通り人力だけで行うことが難しくなっています。そのため、作業のリスクが高くなるケースが増えてきました。そこで、テストヘッド取り付けや位置調整を従来の手順で行う際の作業リスク分析を実施しました。設計部門やテスターメーカーへ結果をフィードバックし、リスクを削減したり取り除いたりする方法をともに考え、実施しました。具体的な改善事例は右表の通りです。

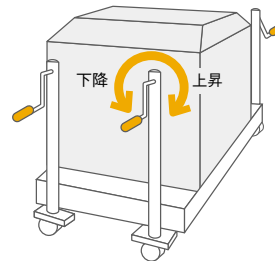
今後も設計部門を中心に各テスターメーカーと協力し、ほかの様々なテスターでも、リスク分析などを用いて設計段階から安全に配慮する活動を継続していきます。

* ウェーハプローバ:テスター(他社にて製造)に接続され、ウェーハ上のICの電極に針をあて、電気的検査を可能にする装置

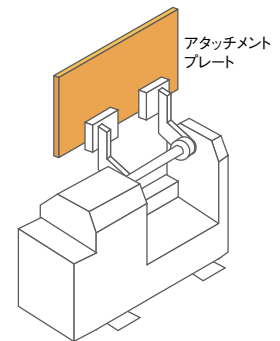
作業リスク分析による改善事例

作業内容	改善内容
重量物のテストヘッドを搬送台車から上下機構付リフターへ載せ換える作業	テスターメーカーが搬送台車に上下機構を追加。これにより人力で重量物を移動する作業をなくした(以下、改善点【1】参照)。
テストヘッドにアタッチメントプレート(約60kg)を取り付ける作業	ウェーハプローバの出荷形態変更により、重量物を手で支えなくても取り付けられるようにした(以下、改善点【2】参照)。
ケーブル束(重量物:30kg/m以上)をクランプ部に取り付ける作業	ケーブル束の持ち上げ重量を測定し、束を小分けにしてリスクの大きい作業をなくした。

改善点【1】
搬送台車に
上下機構を追加



改善点【2】
アタッチメントプレート
を取り付けた状態で出荷



TOPICS

チームリソースマネジメント研修

装置の大型化に伴い、作業員の数も増える傾向にあります。人数が多くなるにつれ作業員間でのコミュニケーションは複雑になります。そこで、人と人との関係に焦点を当てた安全活動や教育がますます重要となってきました。こうした背景の中で、日本ヒューマンファクター研究所と共同で開発されたのが、TRM (Team Resources Management) という教育手法です。TRMは、航空機内で高品質のチーム作業を行うために、利用可能なすべての人的リソースやハードウェア、情報を効果的に活用する能力の習得を目的としたCRM (Crew Resources Management) を発展させたものです。

TRMの対象は現場の作業リーダーで、内容はコミュニケーション、チームづくり、状況認識などです。クリーンルーム内で想定された作

業をチームで行う実習などもあり、一回の受講者数は10数名に限定されます。そのため修了者はまだ少数ですが、今後もこの教育を通じて、何気なく行ってきたコミュニケーションやチームワーク、状況認識が実は非常に重要で難しいものであること、また意識的に自分の行動を変えることによりこれらの質が高くなることを多くの参加者に気付いてもらい、現場作業時のコミュニケーションやチームワークを改善していきたいと考えています。



教育実習風景